

身延山大学仏教学部の平成一八年一〇月一日から平成一九年九月三十一日までの教員活動の一端を紹介します。

○教員消息

- ▽中山光勝教授は平成一九年四月一日をもって仏教学部長に再任しました。
- ▽福士慈稔助教授は平成一九年四月一日をもって教授に昇格しました。

○海外出張

- ▽寺尾英智教授と福士慈稔助教授が平成一九年二月一六日から二月一九日にかけて、韓国で旧正月仏教行事の調査を行いました。
- ▽柳本伊左雄教授が平成一九年二月二一日から三月一四日にかけて、ラオス仏像修復プロジェクト実行のためラオス王宮博物館内仏像修復所に行きました。
- ▽山田英美教授が平成一九年二月二六日から三月七日にかけて、ネパールで働く女性の実態調査を行いました。
- ▽望月海慧助教授が平成一九年三月八日から三月一二日にかけて、中国で中国仏教の現状に関する調査を行いました。
- ▽宮川了篤学長と池上要靖教授が平成一九年五月二五日から五月三一日にかけて、第四回国連記念日ウエーサク祭国際仏教徒会議並びにプミボン国王満八〇歳祝式典における「国際仏教大学協会」設立に関する検討会議出席のためタイに行きました。
- ▽福士慈稔助教授が平成一九年七月二七日から八月三日にかけて、韓国で旧百濟地史跡調査を行いました。
- ▽寺尾英智教授が平成一九年八月一日から八月四日にかけて、鎌倉仏教研究会台湾視察旅行に参加して台湾に行きました。
- ▽長澤市郎教授が平成一九年八月二二日から八月二九日にかけて、敦煌壁画芸術継承国際学術研究会出席のため中国に行きました。
- ▽柳本伊左雄教授は平成一九年九月一日から九月二三日にかけて、ラオス仏像修復プロジェクト実行のためラオスに行きました。

○教員出版物

▽望月真澄教授『法華信仰のかたち その祈りの文化史』大法輪閣、平成一九年八月

○教員論文等

▽中山光勝教授「仏教と矯正保護」(『更正保護やまなし』一三九)

▽池上要靖教授「Kula-putra」と呼称される人々」(望月海淑博士喜寿記念論文集『法華経と大乘経典の研究』山喜房仏書林)、「身延山声
明に関する一考察」(上田本昌博士喜寿記念論文集『日蓮聖人と法華仏教』大東出版社)、「小児のターミナルステージにおけるケアの
問題点」(『やまなし小児保健』二四)

▽田沼朗教授「子どもと学校、この一年」(『子ども白書』二〇〇七年)、「働くことと生きることを統一的に保障する試み―宮下実践への
コメント」(『教育』二〇〇八年一月号)、「深山正光『国際教育の研究』の出版の経緯とその意義」(『身延論叢』一一)

▽寺尾英智教授「中世日蓮教団における葬送について」(『宗教研究』八〇―四)、「日蓮遺文『日妙聖人御書』の古写本と真蹟―身延文庫
所蔵写本の紹介―」(上田本昌博士喜寿記念論文集『日蓮聖人と法華仏教』大東出版社)、「地域寺院の展開」・「戦国の武士たちと信
仰」・「高野山・伊勢信仰と廻国聖」(財団法人千葉県史料研究財団編『千葉県の歴史通史編中世』)

▽福士慈稔教授「日本天台宗と浄土宗に於ける新羅元曉研究」(望月海淑博士喜寿記念論文集『法華経と大乘経典の研究』山喜房仏書
林)、「一二世紀末までの新羅・高麗仏教に対する認識研究の手法と意義」(『宗教研究』八〇―四)、「韓国の禪」(共著)(『禪学研究入
門』大東出版社)

▽間宮啓壬教授「手を握り合いつつ競合し、競合しつつ手を握り合う―「開会」を手がかりに―」(『大崎学報』一六二)、「宗学的日蓮研
究―近代以降の点描を中心に―」(『身延山大学東洋文化研究所報』一〇)、「法華経の行者」と「唯日蓮一人」の自覚―正統性のこ
ころみ―」(望月海淑博士喜寿記念論文集『法華経と大乘経典の研究』山喜房仏書林)、「存在のあり方を決定するもの―法華経力の一
断面―」(日本仏教学会『日本仏教学会年報』七一)、「日蓮研究に関する方法的試論と戦後日蓮研究史―宗教学・倫理学等、その他

の分野の諸研究点描―(上)田本昌博士喜寿記念論文集『日蓮聖人と法華文化』大東出版社、
「存在の上昇―法華験記」にみる法華経力の一断面―(『宗教研究』八〇―四)

▽望月真澄教授「近世における身延山信仰と地域―身延上の山丈六堂内釈迦像胎内文書の分析―(上)田本昌博士喜寿記念論文集『日蓮聖人と法華仏教』大東出版社)、「甲斐と駿河を結ぶ道」(『金山史研究』八)、身延七面山「うつし霊場」の事例(『宗教研究』八〇―四)、「歴史と」宝物でたどる祖山の姿(『正法』一〇九)

▽山田英美教授「娘・母時関係の物語(二)」(『身延山大学仏教学部紀要』七)「食育」ということ(『みのぶ』二〇〇七年二月号)「育児のポイントとしての「あまえさせること」と「甘やかすこと」(国立花山青少年自然の家平成一八年度企画事業報告書)「子どもと自然体験」(『カウンセリング』全日本カウンセリング協議会二〇〇七年七月号)

▽高橋一公准教授「社会福祉を専攻する学生の老人のイメージ―セミナーティック・ティファレンシャル法(SD法)を用いた老人のイメージの測定―(『身延山大学仏教学部紀要』七)、「カウンセリングから学ぶ「聴き手」の基本的態度」(『みのぶ』二〇〇六年十一月号)

▽望月海慧准教授「What are major sutras in Indian Buddhism?」(『身延山大学仏教学部紀要』七年)、「Doi po paの二諦説理解について」(『仏教学』四八)、「Dipankarasrjñanaに帰される三種のgr̥ta文献について」(『印度学仏教学研究』五四―二)、「アティシヤに帰されるvidhi文献について」(『宗教研究』八〇―四)、「ラトナーカラシャーナンティ『経集解説・宝明莊嚴論』和訳(2)」(『身延論叢』二二)、「現代中国における仏教教育機関の調査報告」(『身延山大学東洋文化研究所報』一一)、「Is Dipankarasrjñana a Madhyamika?」(*Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism* 『Sambhāsa』二六)

▽伊東久実講師「ブックスタート運動と保育者の専門性」(『身延山大学仏教学部紀要』七)

▽ジル・エマ・ストロースマン特任講師「The Early Poems of Kazuko To」(『身延山大学仏教学部紀要』七)